

くにみ保育園「自己評価」結果について

くにみ保育園の保育の内容等について、保育教諭等による自己評価を踏まえ、全職員で共通理解し、当保育園の保育を振り返り、保育の質の向上のために評価を行いました。

【自己評価の内容】

大きな項目は、下記の 4 項目です。
「◎：できている ○：ほぼできている △：努力が必要」 の 3 段階で評価しました。

< 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 >

1 第 1 章 総則

- ・ 幼保連携型認定こども園における教育及び保育の基本及び目標等
- ・ 教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画等
- ・ 幼保連携型認定こども園として特に配慮すべき事項

等に関する 47 項目

2 第 2 章 ねらい及び内容並びに配慮事項

- ・ 乳児期の保育に関するねらい及び内容
- ・ 満 1 歳以上満 3 歳未満の園児の保育に関するねらい及び内容
- ・ 満 3 歳以上の園児の教育及び保育に関するねらい及び内容
- ・ 教育及び保育の実施に関する配慮事項

等に関する 28 項目

3 第 3 章 健康及び安全

- ・ 健康支援 ・ 食育の推進 ・ 環境及び衛生管理並びに安全管理 ・ 災害への備え

等に関する 13 項目

◎食事の提供

- ・ 栄養計画と食事計画 ・ 調理、提供 ・ 食事 ・ 食育の評価、改善 ・ 衛生管理
- ・ 食物アレルギー児、障害のある子どもに対する個別対応

等に関する 61 項目

4 第 4 章 子育ての支援

- ・ 子育ての支援全般に関わる事項 ・ 幼保連携型認定こども園の園児の保護者に対する子育ての支援
- ・ 地域における子育て家庭の保護者等に対する支援

等に関する 5 項目

◇自己評価結果の概要 ◎：できている ○：ほぼできている △：努力が必要

項 目	項目を平均した割合（％）					
1 第 1 章 総則	◎	71%	○	28%	△	1%
評価（改善策）	・ 今年度から認定こども園としてスタートし、教育・保育要領を基本としながら、保育にあたった。今後も計画を立てる時や保育に活用していきたい。 ・ 外国籍の保護者に対し言語通訳アプリを利用して、互いに伝えあうことができた。今後も様々なツールを活用してコミュニケーションを図れるようにしていきたい。また、子どもが安心して園生活を送れるような援助や取り組みもしていきたい。					

2 第2章 ねらい及び内容並びに 配慮事項	◎	77%	○	23%	△	0%
評価（改善策）	・子どもたちが主体的に遊べるような環境設定をしてきた。子どもたちの「やりたい」「やってみたい」という気持ちを大切にしながら、今後も意欲的に活動できるようにしていきたい。 ・今年度から年長児を対象に学研の「かがくタイム」を年6回行った。色・音・空気等の不思議を楽しく学ぶことができた。体験を生かし、発表会の劇に効果音として取り入れることができた。 ・幼児教育専門員の方に保育を見ていただき、子どもへの援助や環境構成についてアドバイスをもらい、保育の見直しや気づきに繋がった。今後も専門の方に保育を見ていただき、より良い保育に繋げていきたい。					
3 第3章 健康及び安全	◎	86%	○	14%	△	0%
評価（改善策）	・子どもの体調や健康状態については、連絡を密にし職員間で共有している。今後もクラス以外の子どもの様子も把握できるよう、職員間で連携を図っていきたい。 ・季節毎に流行しやすい感染症について、ほけんだよりで予防や注意喚起を呼びかけたり、感染症の拡大状況を見ながら玄関に掲示した。 ・毎月様々な場面を想定し、避難訓練を行っている。安全に避難できる方法を検討し、おんぶ紐等避難時に必要な物を取りやすい場所へ移動する等、安全を第一に考えて行っている。 ・園内外の危険を伴う箇所を職員間で把握し、子どもたちにも分かるよう表示したり、安全柵を置いたりし、ケガや事故に繋がらないようにした。また人数把握も徹底し、子どもたちが安全に遊べるようにしている。 ・野菜の栽培を通して生長過程を楽しみにしたり、実際に食べたりすることで食に対する関心を高めることができた。					
◎ 食事の提供	◎	91%	○	9%	△	0%
評価（改善策）	・安全面に十分留意し、安心して食事ができるよう努めた。 ・行事食は、子どもたちが楽しめるようなメニューを検討し、特別感を味わえるように工夫した。 ・食事のマナーについて個々に応じた働きかけをしていき、楽しんで食事ができるよう取り組んでいきたい。 ・外国の料理や行事食、社協との献立交換会を行い、様々なメニューを知ることができたり食べたりする機会が持てた。今後もメニュー検討をしながら、食事に期待を持たせていきたい。					
4 第4章 子育ての支援	◎	70%	○	30%	△	0%
評価（改善策）	・より多くのお家の方が参加できるよう、園行事の持ち方について話し合いを重ねたことで、昨年度よりも行事へ参加していただく機会を設けることができた。 ・「子どもの最善の利益」を最優先に考え、保護者の要望や意見を受け止めながらも、子どもにとって何が最善の利益になるのかということを考えていきたい。 ・園だより、クラスだより、ホームページ、インスタグラム等で園の様子を知らせることができた。また日々の様子等を直接伝える場も大切にしていきたい。					

◇今後の取り組み

- ・送迎時は玄関での対応なので、保護者の方とじっくり話をする時間が取れないため、個人面談を大切にし、園や家庭の様子を伝え合う場に今後もしていきたい。また、個人面談の他にも必要に応じて面談する機会を設け、共通理解できるよう努めていきたい。
- ・園行事の持ち方を検討し、子どもの成長と一緒に喜び合えるような機会を設けていきたい。
- ・地域の方との交流の場（世代間交流、文化祭等）に参加していきたい。